

Title	オイルフローの構造変化分析
Sub Title	
Author	伊奈昭人(Ina, Akihito) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1992
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1992年度経営学 第896号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001992-0896">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001992-0896</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

伊奈 昭人  
(コスモ石油株式会社)

主査 小野桂之介

副査 古川 公成

河野 宏和

所属

小野桂之介 研究室

## オイルフローの構造変化分析

本論文は、世界のオイルフロー（原油と石油製品）の歴史的変化と将来環境変化の分析に基づき、今後のオイルフローの変化を予測し、それが日本の石油会社にもたらすビジネス上のチャンスとリスクについて考察し、今後とるべき企業行動を提言することである。

まず第一に第一次オイルショック以後の約20年間について、世界の主要な経済地域（北米、西ヨーロッパ、日本、東アジア）間のオイルフローの変化を調査し、そうした変化をもたらした原因を分析した。次に、その分析結果と追加的な文献調査に基づき上記地域間のオイルフローの将来的変化について定性的な予測を行い、過去20年間の数量的傾向値を利用することにより1995年前後及び2000年前後の定量的なオイルフローの変化予測を行った。

この結果、予測を行ったどの地域（北米、西ヨーロッパ、日本、東アジア）においても、将来的に中近東地域への原油及び石油製品の調達依存度が高まり、この地域との関係強化が単に安定供給だけでなく、新たなビジネスの拡大につながる可能性の強いことが分かった。また、日本を含む東アジア地域においては、高い経済成長による市場規模の拡大が予想される反面、制約要因による製品需給のタイト化が懸念されることから、日本からの製品輸出の拡大、ソフト面での協力、下流部門への進出等が制約要因を抑え日本の石油会社にとり、若干のリスクは伴いながらも、相当なビジネスチャンスが存在することが分かった。